

学校教育目標



須和田が丘

夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒

令和4年度
学校だより No. 12
令和4年6月1日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

マスクの着脱について

市川市の「新たな学校生活ガイドライン」が改訂され、マスクを必要としない場合の具体例が以下の通り示されましたので、お知らせいたします。

なお、教室等の屋内では、2m以上の身体的距離をとることが難しいため、基本的にマスクの着用を継続します。

○マスクを必要としない場合

- ・登下校中。但し、身体的距離を確保し、会話を控えることが望ましい。
- ・屋外での運動時（体育、運動部活動等の運動時）
- ・屋外での昼休み。但し、密集する遊びや長時間接触する遊びは避ける。
- ・体育館での運動時。但し、二方向の窓を開けるなど、換気を十分に行う。また、近距離での会話は控える。
- ・そのほか、十分な身体的距離が確保できる場合。

○マスクを積極的に外す場合

- ・熱中症などが発生する恐れがある次のような場合
 - *特に呼吸が激しくなる運動
 - *気温、湿度や暑さ指数（WBGT）が高い日の屋外の活動

政府はこれまで、「人との距離を十分取ることができれば、屋外での着用は必ずしも必要ない」としてきましたが、5月20日には、「人との距離が十分に確保できなくても、会話が少ない場合などは、必ずしも着用の必要はない」として、人との距離が2メートル以上あれば、屋外だけでなく屋内においても、マスクを外せるといった基準を示しました。

今や、外に出るとほとんどの人がマスクを着用しています。電車内はもちろんですが、公園で犬の散歩をしている人や、自転車に乗っている人など、周りに人がいない屋外においても、多くの人がマスクをしています。

義務でもないのに多くの人がマスクをしている日本は、もちろん感染防止の面では素晴らしいことであり、そのことによって、欧米ほどに感染者が激増しなかったという側面はあると思います。

しかし、ワクチン接種が進み、感染リスクの高い場面が詳細に分かってきている現在でも、日本人が屋外においてもマスクを着け続けるのは「みんながそうしているから」という同調圧力によるところが大きいのではないかと指摘もあります。そういった状況の中で、「登下校時にマスクを外しましょう」と言っても、それは子供たちにとって勇気のいることだと思います。また、これまでマスクで隠していた「顔」をさらすことに不安を感じる人も少なくないといった報道もあります。

しかし、気温・湿度が高い夏季においては、マスク着用が、熱中症リスクを高くする恐れもあります。

そこで、まずは学校内において、「マスクを必要としない場面」「マスクを積極的に外す場面」において、「マスクを外しても良いですよ」「マスクを外しましょう」といった指導を行い、子供たちが安心してマスクを外せる環境をつくっていくことが大切だと思っています。そしてそのことが、学校外においても適切にマスクの着脱を判断することにつながるのだと思います。

このため体育祭においては、応援席ではマスクを着用、競技（入退場も含む）中はマスクを外すといった指導をしています。但し「必ず」ということではなく、マスクを外すことに不安を感じる生徒には着用を認めています。（熱中症が心配されるような状況下では、安全確保のために積極的にマスクを外す指導をします。）

なお保護者の皆様の参観につきましては、密集する状態が予想されますので、マスクの着用をお願いいたします。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。